

みのかも発掘調査隊員 14 人で描いた、 新しいランチョンマットができました。

みなさんも一度、自分の目で確かめてください！



Vol. 1 山之上・下米田

市無形民族文化財に指定されている、十二社神社の「山之上の獅子芝居」や諏訪神社の祭礼で奉納される「米田の祭りばやし」で登場する山車。また、両地区を代表して2人の名物おじさんなどが紹介されています。

春に高木山などに咲く「ヒカゲツツジ」ですが、実は米田白山でも見ることができます。



Vol. 2 蜂屋・加茂野

食の世界遺産「堂上蜂屋柿」や三色の大根などの食べ物と、瑞林寺の蜂屋大仏、小野寺の小野小町に関する言い伝えなどの歴史に関することが多いのが特徴です。堂洞城跡には「曲輪」や「堅堀」と呼ばれる敵の侵入を防ぐための堀が残っています。曲輪からは、焼けた米なども採集されています。



Vol. 3 古井

「はいばう」が登場する古井神社の祭礼、清水端会議？発祥の「箱井の清水」や古井小学校の蒸気機関車など、多様なものが描かれています。

ちなみに、蒸気機関車の車体番号で使われるCとDの違いは、動輪(車輪)の数(Cは片側3つ、Dは片側4つ)だそうです。



Vol. 4 伊深・三和

「竜宮さまの淵」や「大蛇伝説」、「幻の滝」など言い伝えが多く残る地域です。

また、春から初夏にかけて、多くの観光客や市民らでにぎわう「牛牧の桜並木」と「三和のゲンジボタル」は、いずれも大きな被害を受けた、昭和43年集中豪雨災害からの復興を願って整備や保護されてきたものです。



Vol. 5 太田

木曽川に残る、1900年前の森林「化石林」、国重要文化財の「旧太田脇本陣林家住宅」や郷土の偉人「坪内逍遙博士」など歴史と文化に触れることができます。

観光拠点施設の「太田宿中山道会館」では、太田宿に関する展示があります。ぜひ、足を運び歴史に触れてみてください。



身近な存在であり続けたい
昨年度作成した5種類の「観光ランチョンマット」は、現在、市内のホテルや飲食店などで実際に使用いただいています。今後は、子どもたちが作った1種類を加え、もっと積極的にPRしていくことを考えています。

自主財源を確保するために
観光行政を継続していく上では、利益の追求も必要になってきます。金額としては少額かもしれませんが、そうした姿勢が大切だと考えています。

あっ君は、「みのかも発掘調査隊」のイメージキャラクターです。「親しみやすさ」、「発見する喜び」や「地域への愛着」を表現しており、調査隊の隊長として活躍しています。

これからも「みのかものいいところ」を多くの人に知ってもらえるようにがんばりますので応援してください。

あっ君には双子の妹がいるというウワサが・・・。

観光ランチョンマットに関する詳細については、
商工観光課
25・2111 内線 261
までお問い合わせください。

(商工観光課)